

龍谷大学世界仏教文化研究センター
2016年度学術講演会

講演名	Can Women Attain Enlightenment through Vajrayāna Practices? (女性は金剛乗の修行で悟りを得られるか?)
開催日時	2016年4月11日(月) 17:00~18:30
場所	龍谷大学大宮学舎西翼 2階大会議室
講演者	Dr. Yael Bentor (ヘブライ大学教授)
コメンテーター	スダン・シャキャ氏 (種智院大学准教授)
開会の挨拶	若原雄昭氏 (龍谷大学副学長、文学部教授)
司会	亀山隆彦氏 (世界仏教文化研究センターリサーチ・アシスタント)
主催	龍谷大学 世界仏教文化研究センター
共催	龍谷学会
協力	龍谷大学アジア仏教文化研究センター
参加人数	20

【講義のポイント】

チベット学の研究者であるヤエル・ベントール博士による、仏教における女性と悟りに関する講演。「女性は悟りを得ることができるのか」という問題をめぐって、パーリ(Pāli)、大乘(Mahāyāna)、金剛乗(Vajrayāna)それぞれの仏典に見られる女性観が明示された。さらにそれら仏典の女性観を踏まえて、金剛乗の修行を行うならば、男性だけでなく女性もまた、その身のままに悟りを獲得できる可能性がある、ツォンカパのような影響力あるチベット仏教思想家がその可能性を明言していることを、ベントール博士は指摘した。ベントール博士の見解は、従来の研究のそれとは大いに異なる、きわめてユニークなものと言える。

【講義の概要】

■ 原始仏教経典

原始仏教のいくつかの経典においては(例えば『マッジマニカーヤ』*Majjhima Nikāya* 中の *the Bahudhātuka Sutta* [Sutta 115. 15])、女性が悟りを得ることは不可能であるとされる。また女性は、仏陀・転輪聖王・因陀羅・魔羅・梵天になることができないとも言われる。その一方で、女性は阿羅漢になることができると記されている仏典もある。また、ソマー比丘尼 (*the Bhikkhuni Somā*)のエピソードにおいては、男性と女性が平等に悟りを得る可能性が示されている。

■ 大乘経典

「原始仏教は女性蔑視的、大乘はより平等である」という一般化は、現在においては必ずしも当てはまるものではなく、むしろ誇張であるとされている。確かに、大乘経典においては善男善女 (*kulaputra and kuladuhitr*) を等しく扱っている。しかし、それが全てではない。例えば、2～3世紀の『無量寿経』 (*Sukhāvāṭīvyūha Sūtra*) の初期漢訳によると、浄土には女性はいないのである。そこに行くためには、男に生まれ変わらねばならない。『菩薩地』 (*Bodhisattva-Bhūmi*) においては、アサンガは女性が悟ることができない立場を貫いている。ただ、『法華経』 (*Lotus Sūtra*) においては、龍王サーガラ (*Sāgara, the Nāga king*) の8歳の娘が、男性の身体に変身することによって悟りを得たと書かれている。『八千頌般若経』にも、仏陀が、ガンジス川の女神 (*Gaṅgā-devī*) が男として生まれ変わり、仏国土で悟りを得ると予言したという話がある。

■ 金剛乗経典

金剛乗の経典においては、男性と女性が一緒に修行することが、男性修行者の視点から書かれている。タントラ的合一は、女性と男性とが相互に開放的な修行になるよう、デザインされている。チベット仏教最高の学僧であるツォンカパ (*Tsong-kha-pa, 1357-1419*) が言うように、男性は方便 (*upāya*)、女性は智慧 (*prajñā*) を意味し、両者の合一は菩薩の悟りへの道の基礎となるものとされている。原始仏教や大乘仏教とは異なり、金剛乗では、修行者は、悟りを得るために死と再生を経験することはない。男女ともに、平等に悟りの道が開かれているのである。

【まとめ】

ベントール博士の見解は、従来の研究のそれとは異なり、金剛乗の修行における女性の意義を積極的に見出すものと言えよう。

原始仏教と大乘は、基本的に女性が悟りを得る可能性に対して否定的であるが、竜王の娘の話やガンジス川の女神の話などからもわかるように、両者はまた、女性が悟りを開くことに対して、禁止と許容との間で揺れてもいる。また『大宝積経』 (*Mahāratnakūṣa Sūtra*) では、「女性の肉体であっても男性の肉体であっても、真実の覚りは達成されない(中略)何故なら、完全な覚りの達成などどこにも存在しないからだ」と説かれている。そこには、空の思想が基礎としてある。

ツォンカパの言うように、金剛乗において女性が智慧、男性が方便であるとする、それは結局、男女は、主客あるいは主従の関係ということになるのだろうか。もしくは、多くのタントラのテキストは、男性のために書かれているが、それは、つまり男性修行者が悟りを得

るために、女性は利用されるだけということなのだろうか。——このような主張は果たして正当性を持つであろうか。

ミランダ・シャウ (Miranda Shaw) も主張しているように、金剛乘における女性修行者は、きっと、どのような段階であれ、悟りを得ることに対して障壁はないはずである。

【スダン・シャキヤ氏からのコメント】

ネパール仏教の視点からコメントがなされた。ネパール仏教では、理論上は男女ともに生前いかに悪業を行っても成仏はできるとされている。しかし実際は、灌頂儀礼を受けることができるのは、男性だけである。この儀礼の下準備は、女性が参加できることもあるが、儀礼そのものには参加できない。結局は、ネパール仏教においてもやはり男性が優位とされているのである。

【文責】 龍谷大学世界仏教文化研究センター 唐澤太輔